

# 未来につなげたい、大切な記憶

unforgettable memories leading us forward

## 令和2年度通常社員総会 -2021（令和3）年3月14日（日）於ゆめトピア長船（瀬戸内市）-

新型コロナウイルスの感染拡大を受けて例年6月の開催を延期しておりました社員総会を、感染拡大対策を講じた上で開催しました。

正会員総数92者中、63者の方にご出席いただき総会が成立している旨の報告がされた後、議長に原憲一理事長が選出されました。審議事項はございませんでしたが、本年度取り組みました長島内の歴史的建造物等の保存修復・整備活用に向けた基礎的調査事業の報告を行い、保存修復策や活用策について活発な議論が行われました。本号でもご紹介しておりますのでご覧ください。

社員総会の様子（動画）は、NPOのYouTube（ユーチューブ）チャンネルにアップする予定です。チャンネル登録いただき、多くの方に拡散くださいますようお願いいたします。

委任状をご提出いただき総会の成立にご協力くださいました正会員45者の皆さまには誌面をお借りしてお礼申し上げます。



【NPO公式YouTubeチャンネル】  
<https://www.youtube.com/channel/UCHeBTc4Vx5lxc2BoUpk9Fig>



### ご寄付いただいた皆様（R2.11.11～R3.3.17）

多くの皆様からご寄付いただきました。誠にありがとうございます。

藤岳尋幸 様	3千円	釜井大資 様	92千円	合計8件 127,710円
本幡照夫 様	10千円	匿名様	金額非公開 5件	

### 講演会にお声がけください

NPO理事長と事務局長による講演会を開催しています。皆さまからお声がけいただけることを楽しみにしています。企画の相談にも乗らせていただきますので、NPO事務局までお気軽にお問い合わせください。

	演題：見捨てられた人々	演題：世界遺産登録について
講師	理事長 原 憲一	事務局長 釜井 大資
講演時間	30分～2時間（質疑応答を含む）	
対象	大学生・専門学校生から 50人～	小学5・6年生から 10人～
内容	1980年代からハンセン病関連取材を続けているRSK山陽放送の貴重な映像や音声とともに、患者の人権を蹂躪した近代日本のハンセン病政策や今なお未解決のハンセン病問題、世界遺産を目指す目的などをお話いたします。	長島愛生園と邑久光明園の歴史やハンセン病問題、（ご希望に応じて）世界遺産登録に向けた学術的な解説をお話いたします。Zoomによるオンライン形式対応可。（当方ホスト可）
料金	無料	

### 長島愛生園歴史館 YouTubeチャンネル

愛生園入所者による証言映像をパソコンやスマートフォンからご覧いただけます。

3月中に立命館大学国際平和ミュージアム(京都市)で開催された企画展

「長島愛生園の人びと ハンセン病 隔離と希望」

関連オンラインイベント5本の様子もご覧いただけます。ぜひご覧いただきチャンネル登録もお願いします。



[https://www.youtube.com/channel/UC\\_jn944EMou-QKGYW9D4I0Q](https://www.youtube.com/channel/UC_jn944EMou-QKGYW9D4I0Q)



### 編集後記

■2017年11月に20者の正会員の皆さまにより設立された本法人も、設立から3年が経過しました。2018年度は世界遺産登録に向けたロードマップを策定し、19年度と20年度は個別の建造物や資料の調査を具体的に進めつつ、世界文化遺産と世界の記憶という大枠の調査研究を進めることができました。

■この間の全ての事業費は、岡山県瀬戸内市「ふるさと納税」を原資とする補助金と皆さまからのご寄付を充てて実施しております。

■登録の実現にはまだまだ時間が必要ですが、2030年の長島愛生園開設100周年を当面の目標とし各種保護措置の実施に向けた計画の策定を進めたいと思います。引き続きご支援くださいますようお願いいたします。

特定非営利活動法人  
ハンセン病療養所世界遺産登録推進協議会事務局

〒701-4501岡山県瀬戸内市邑久町虫明6253番地  
（国立療養所邑久光明園旧入所者自治会館内）  
TEL：0869-24-8872 FAX：0869-24-8873  
email: [hansen-wh.jp@aioros.ocn.ne.jp](mailto:hansen-wh.jp@aioros.ocn.ne.jp)

開所日：火曜日～土曜日  
閉所日：日・月曜日、祝日、振替休日、年末年始  
開所時間：午前9時～午後5時

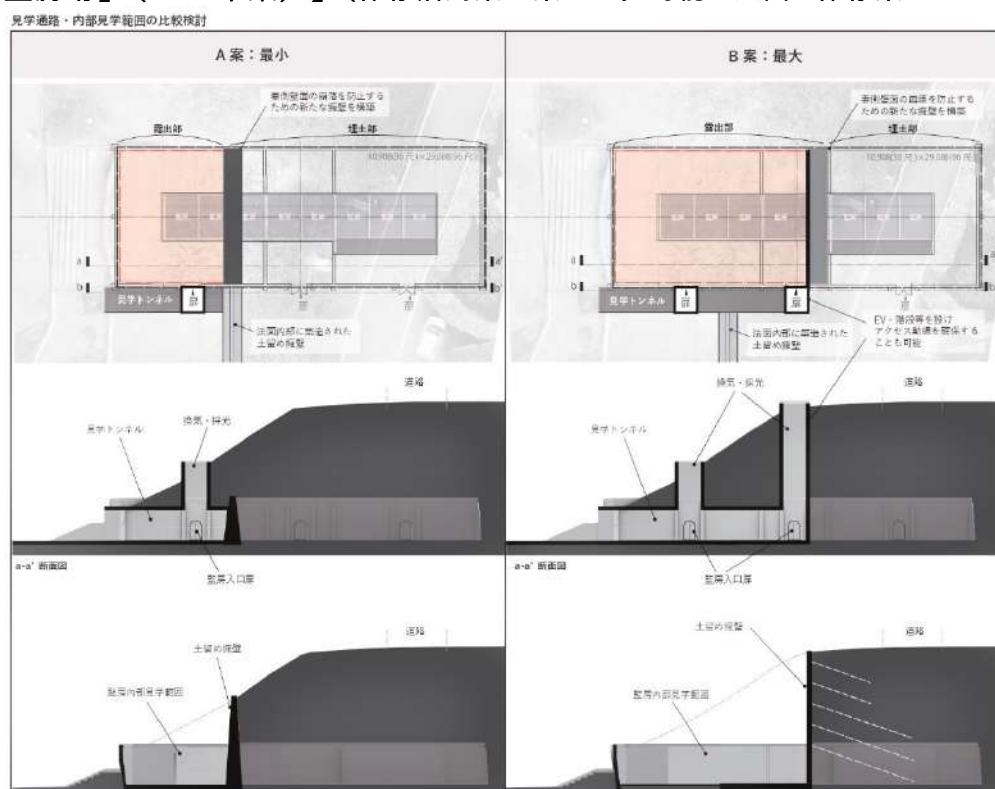


### 【長島愛生園「収容棧橋」(1939年築)】保存活用品案(4案)

比較案	保存活用品案 A	保存活用品案 B	保存活用品案 C	保存活用品案 D
内容	風雨・劣化の原因となる外的要因から耐力増進する	当初の構造を復元する	適用: 既存構造を維持したまま耐性を高める 保存: 劣化部分は一部を撤去し、劣化防止および将来の耐性・劣化を抑制する(劣化を強らざる)耐性を高める。	適用: 既存構造を維持したまま耐性を高める。 保存: 劣化部分は一部を撤去し、劣化防止および将来の耐性・劣化を抑制する(劣化を強らざる)耐性を高める。
各案の断面図				

- (案A) 止水し劣化を最小限にする補修を行い、周辺に囲いを作り海水の流入を遮断する。海水の影響を受けなくなるため劣化は最小限となるが、景観が大きく変わる。
- (案B) 新築時の棧橋に復元する。新築の装いとなり、時の経過(隔離が必要ないこと)が戻される。
- (案C) 止水し劣化を最小限にする補修を行い、棧橋の真上に見学用の棧橋を設ける。棧橋を間近で見学することができ、かつ、かつて収容された入所者が見た内白間の景観を体験できる点では案Dより優れるが、現在の棧橋周辺の景観を阻害する点では案Dより劣る。
- (案D) 止水し劣化を最小限にする補修を行い、棧橋の脇に見学用の棧橋を設ける。棧橋を間近で見学できる点及びかつて収容された入所者が見た内白間の景観を体験できる点では案Cに劣るが、現在の棧橋周辺の景観を保つ点では案Cより優れる。

### 【長島愛生園「監房跡」(1930年築)】(保存活用品案2案 望見可能な壁面の保存案については省略)



現在は法面として土中にある監房本体の南側にトンネルを掘り、監房外壁の扉から監房内に入れる可能性を提案する。薄い赤で塗った部分が掘り起こし可能な監房内部である。(案A)が掘り起こし面積が最小で内部の独房を2部屋発掘するもの、(案B)が掘り起こし面積が最大で内部の独房を4部屋発掘するものである。

トンネルを掘れば掘るだけ、監房の全容解明に近づくが、法面を支える新たな擁壁の規模も大きくなり、景観が大きく変わる。

2021年度には長島愛生園2物件に関する最適な保存と活用の策をNPOロードマップ委員会と愛生園ワーキング・グループの合同会議で引き続き検討を重ね、年度末には具体的な案とそれらを実施するために必要な見積金額を提示します。

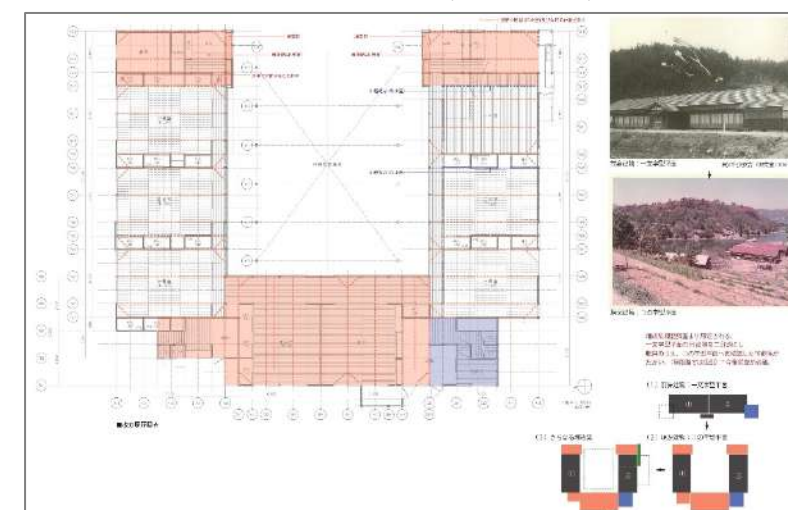
## 歴史的建造物等の基礎的調査(中間報告)

-保存修復・整備活用を目指して-

「長島」を世界文化遺産の構成資産候補とする場合、個々の構成要素を適切に保存管理することが必要です。そこで本年度と来年度、とりわけ倒壊・崩壊の危機に直面する長島両園4物件の現状の調査し、保存修復と整備活用の素案を目指すことにしました。今回は具体的な案をお示しさせていただきます。(詳細は6月発行予定の年次報告書にてご案内いたします。)

本件調査は、会員の皆さまの会費やご寄付に加えて瀬戸内市に寄せられた「企業版ふるさと納税」「クラウドファンディング型ふるさと納税」を充てて実施しました。改めてお礼申し上げます。

### 【邑久光明園「旧少年少女舎」(1939年築)】



- ・園に保存されている図面は、1958年に作成された簡易な平面図(コの字型)1枚のみだった。
- ・全体的に南西方面に傾斜しているが、建物全体の変形の程度は比較的小さく外観の印象ほどに軸組み・小屋組部材の劣化は進んでいない。
- ・小屋組は非常にしっかりしている。
- ・南側に一部雨漏りが見られるが、現段階で対処すれば一部母屋の置換のみで小屋組のほとんどは再生可能。
- ・一文字型からコの字型に再構築したと思われる痕跡が確認されたが、裏付ける資料が必要。
- ・実測図面を約30枚作成した。

### 【邑久光明園「二つの棧橋」(1938年築)】



- 園に保存されている図面等の発見に至らなかった。加えて次の事情により、本格的な調査に至らなかった。
- ・(左) 国土院整備の空中写真を加工して作成1975年(左上)と1980年(左下)で、患者棧橋の幅が倍以上になっているが、変遷の経緯が分かる資料は発見できなかった。
- ・(下) 「二つの棧橋」中、患者棧橋には様々な障害物が積まれており、測量が実施できない。



### 【邑久光明園2物件に対する評価】

- ・1976年台風17号災害(復旧)と1988年邑久長島大橋架橋に際して、「木尾湾の景観」は変化したと思われる。両物件に加えて木尾湾周辺整備に関する変遷が分かる図面や台帳を探し出す必要がある。同時に、旧学校及び旧少年少女舎に関わった入所者への聞き取りが必要である。
- ・両物件に加え、旧学校(国登録有形文化財)を含めた「木尾湾の景観」全体をどのように保存して活用するビジョンを描くか。まずは光明園と入所者自治会で協議いただく必要がある。
- ・「木尾湾の景観」は幼くして収容された子どもたちが共に生活し学んだ記憶と、収容された入所者の記憶が建造物と景観で保存されている貴重な場である。

# 長島愛生園機関誌「愛生」 ～開園90周年記念号に寄せて～

愛生（第74巻・第6号 通巻828号 令和2年11・12月号）から承諾を得て転載

長島愛生園入所者自治会  
会長 中尾 伸治

「光陰矢の如し」という言葉がありますが、本当に月日は激流のように、10年間があっと思うほど早く過ぎてしまいました。

稿を起す前に、愛生誌の90年をどのように振り返ろうか、自室の縁側で草だらけの庭をぼんやりながめていて、ふっと、和公梵字さんが思い出されて来ました。和公さんが若かりし頃、よく相愛の野原にしゃがんで、草の芽の吹く音や虫の足音などを観察している姿を目にしたことがあります。いつもズボンのうしろポケットに小さなノートを入れて、風景の句を書いていた。

そんな昔の活発な文芸活動から、最近は少し淋しくなって来たように思い、この10年間に亡くなった201名の中で文芸活動をされていた方を調べたところ、短歌10名、俳句5名、詩謡3名、創作2名、川柳1名の方々が鬼籍に入られておりました。愛生誌発足の頃をふり返ってみることにし、愛生編集部から、創刊号、昭和11年号、昭和18年号、昭和22年号、昭和25年号をお借りして、歴史に触れることにしました。

昭和6年3月27日、現在さざなみハウスや自治会のある海岸に、多磨全生病院から、開拓患者として選ばれた81名と、途中で合流した4名を加えた85名の方々が長島に上陸して始められた生活のなかで、10月31日に愛生誌が生まれました。

創刊号、Y・T生は文中で「私達は『愛生』を使者として、世人に何を希ふべきか、何を語るべきか」と語り、誌の発行を喜ぶ文章と共に園内の生活の様子を伝えています。そのほかには、児童の文芸、半年前に別れた地を思う三行詩「松 松松の長島で／くぬぎの武蔵野を／しので居ます」、歌謡、小文集など、文芸を主体にたちあげられています。施設が発行し、職員が率先して詩歌の会を作り、入所者に、文芸を通して生活の潤いを広げようとしたことがうかがえます。また、愛生日誌に、

3月27日入所者が初めて上陸した喜びや、4月20日数百本の桜桃苗を植樹したこと、5月1日園内作業のために入所者代表と協議し、作業賃を甲10銭、乙8銭、丙6銭と大綱を決定、とあります。6月7日日出チーム対夕陽チームで野球の試合をしたり、8月21日プール開き夜は花火打ち上げ、8月31日本園最初の園葬があり7名の霊を慰む、その時に入所者は461名（男365名、女96名）と記載されています。

愛生誌2号には、交流の様子として、来園下さった岡山市の出石小学校馬場校長ほか2名の先生一行が、出石小学校生徒の絵画などを持参して慰問され、後日、愛生園少年舎の子どもたちや一般の入所者からお礼の短歌をお送りしたとあります。多くの号に、訪問や慰問があるごとに感謝の句や歌が表され、職員も、光ガ丘俳壇、楓の陰歌壇などで腕を競っている様子もうかがえます。

戦前は各文芸団体ごとに次の方々が選者を担当して下さいました。

俳句 大田あさしさん・本田一杉先生

短歌 内田守人先生

詩話 上尾登先生・藤本浩一先生

昭和9年11月発行の愛生10号は、「僚友外島に捧ぐ一復興を祈りつつ」と題して発行し、室戸台風で大被害を受けた様子、園内での慰霊祭などの様子を伝えています。

昭和18年6月に小川正子先生の追悼号を出し、先生の死を偲んでいます。戦時色が日増しに色濃くなり誌面も「うちてしやまん」という言葉が盛り込まれ、昭和19年、14巻7号をもって休刊になり、土井晚翠先生からなぐさめと励まし詩が寄せられています。編集後記は「いざさらば『愛生よ』我皇国の勝ちぬくまでしばし筆をおさめよう」の一行で閉じています。

（次頁に続く）

(前頁からの続き)

3年間の暗い厳しい月日が過ぎ、昭和22年2月1日発行で愛生誌は復活し、内容は、光田園長の癩調査の原稿、詩、短歌、俳句、児童文芸、裏表紙共で4枚綴りです。

以後3ヶ月に1度4枚綴りで発行し、昭和23年1・2・3合併号から6枚綴り、以後合併号ではありますが、ページ数が増加しています。文章も詩も歌も句も明るさが表され、飛び立って行く鳥のように思えます。

昭和24年から、編集委員が職員から入所者に替わり、初めは文教部長であった津川冽さんが担当しましたが、文芸協会が発足し、代表であった大村堯さん、千葉修さん、そして秋山長造さん、佐々木清一さん、双見美智子さん、和公梵字さんに引き継がれました。

年々誌面が賑やかになり、文芸作品の選者も次の方々となりました。

俳句 梶井枯骨先生

短歌 杉鮫太郎先生・鹿児島寿蔵先生

詩 永瀬清子先生

創作 鶴見俊輔先生

川柳 (昭和27年誕生)

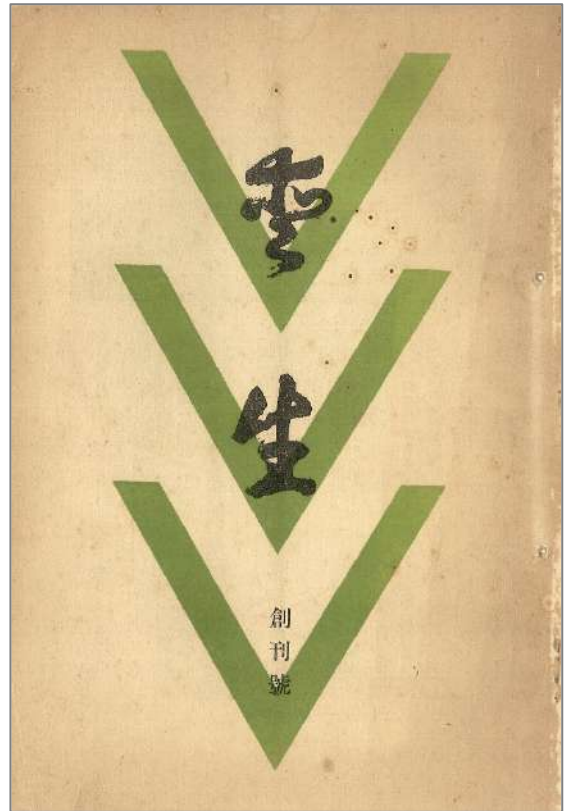
河田五風先生・大森風来子先生

先生方の指導を受けながら腕をみがき、先生方の勧めなどで、各部会からそれぞれ何度か冊子が発行されました。今もなお明石海人の「白描」は問合せのある歌集になっています。

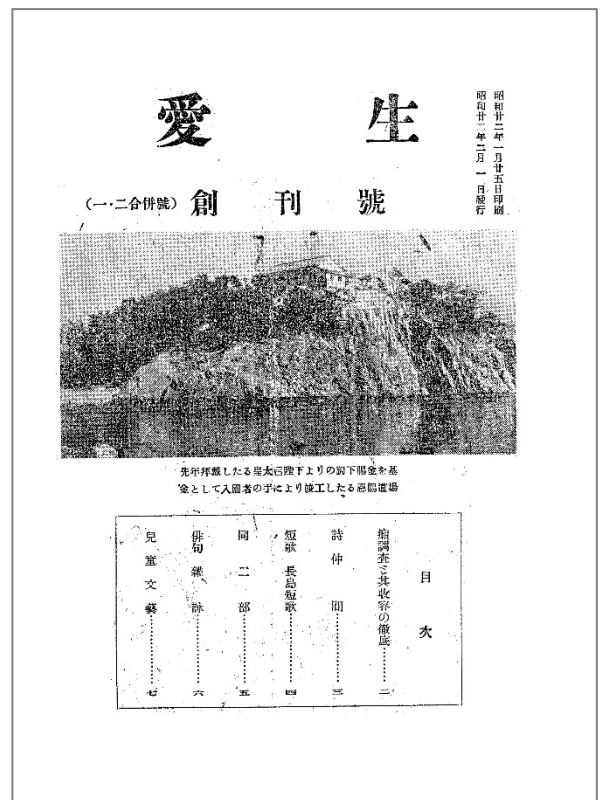
現在入所者は134名、平均年齢は87才。つい先年まで、月の始めにその時々々の旬の風景を、動きを、園内放送で流してくれ、何もしない私もその季節を知り、うつり変わって行く風景を思い浮かべていましたが、今はもうそのような旬を伝えてくれる声も流れず、歌を作ったり句を作る人も少なくなり、淋しさを覚えています。開園以来、時々々の詞で、風景や動きを誌面で伝えて来た歴史を大切に守って行きたいものです。

愛生誌は100周年に向かって今後も発行されてまいります、入所者の声が、昔話が聞こえるように、小さな一人ごとでも聞かせてほしい。

頑張ろう、愛生誌。



「愛生」創刊号



「愛生」(戦後復刊) 創刊号